



CHIBABANK

中国レポート

急成長するモバイル決済市場

2017年7月号

千葉銀行上海駐在員事務所

1. はじめに

今年 6 月に日本銀行が発表した調査レポートによると、日本におけるスマートフォンを用いたモバイル決済の利用率が 6.0%である一方、中国では 98.3%という驚きの数字が出ています。

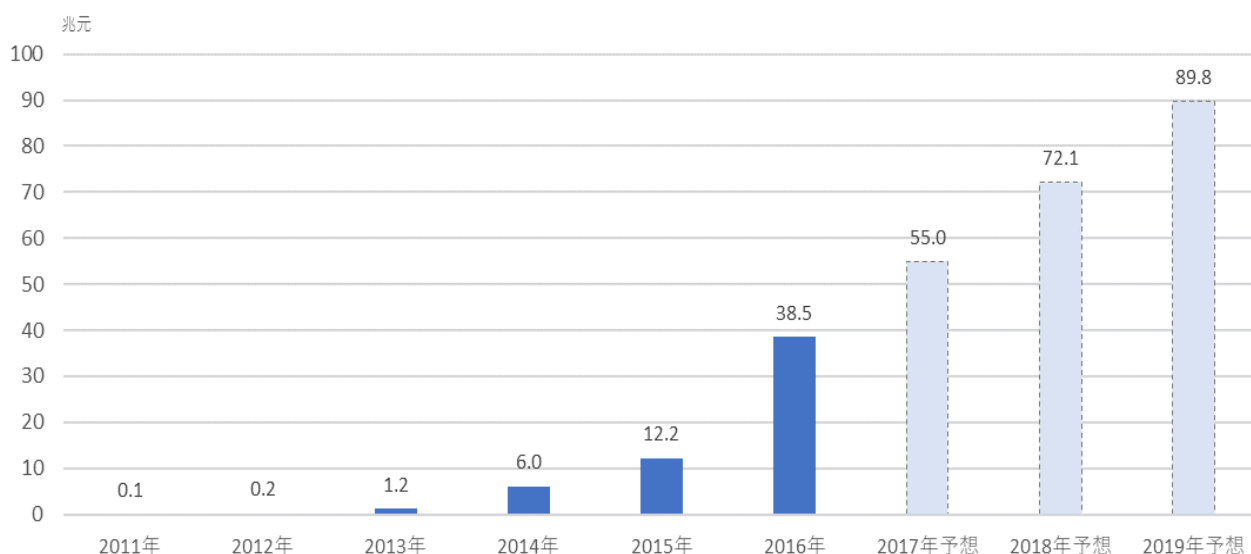
今や中国では、飲食店・コンビニエンスストア・タクシーなどあらゆる支払いの場面において、モバイル決済を利用することが当たり前の光景となっており、スマートフォンがお財布の役割も果たしています。

今月は、急成長する中国のモバイル決済市場についてレポートしてまいります。

2. モバイル決済市場規模の推移

中国の大手調査会社「iResearch」社によると、2016年の中国におけるモバイル決済市場規模は 38.5 兆元（約 616 兆円）に達しており、これは、米国の同年同市場規模 1,120 億ドル（約 12 兆円）の約 50 倍に相当します。

【モバイル決済市場推移（モバイルバンキングは除く）】



（出所：iResearch 社）

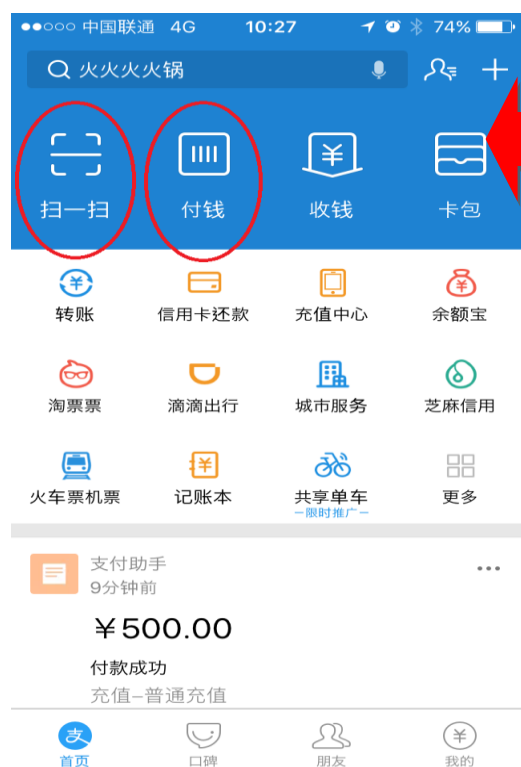
中国のモバイル決済市場が急成長している背景には、米国や日本などと比較し、中国ではクレジットカードがあまり普及していないことや、モバイル決済の機能性・利便性が高いことなどがあげられます。

日本では、「Suica」や「QuickPay」、「ApplePay」などのNFC（近距離無線通信型）決済方式が普及していますが、中国では、QRコード・バーコードをスマートフォンで読み込み決済を行う方式が一般的です。

POSレジなどが設備されたコンビニエンスストアやデパート等のチェーン店・大型店では、POSレジと接続されたバーコードリーダーにより決済が行われており、この場合、利便性などの点において日本とそれほど大きな差はありません。

しかし、中国では、POSレジのような設備のない屋台等でも、決済用のQRコードやバーコードを店舗側が用意することで、バーコードリーダーなどの特別なハードウェアがなくても決済が可能となっています。これにより、店舗側は導入コストが抑えられ、消費者も小銭を用意する必要がなくなるなど利便性が向上することも、モバイル決済の急成長の要因として挙げられます。

【参考例：支付宝（アリペイ）決済の流れ】



支付宝（アリペイ）の画面
決済の方法は①「付钱（右）」と、
②「扫一扫（左）」の2種類

① 自分の QR コードを POS レジのバーコードリーダーで読み込んでもらい、決済する方法(付銭)



② 自分が店舗にある QR コードを読み込んで、決済する方法 (扫一扫)



3. 第三者決済サービス (支付宝(アリペイ)、微信支付(ウィーチャットペイ))

中国のモバイル決済においては、「第三者決済」と呼ばれる方法が主流となっています。

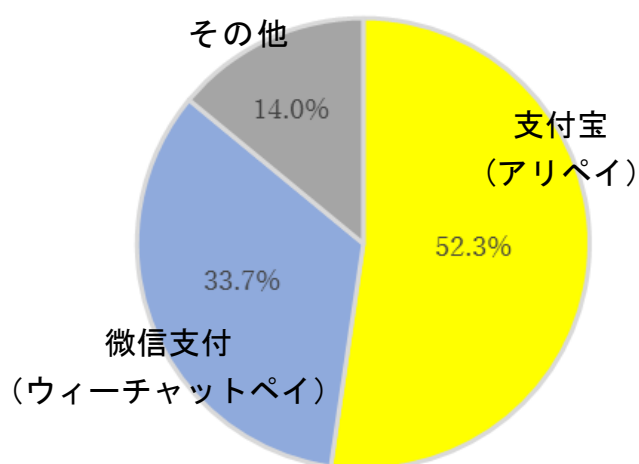
第三者決済とは、ある程度の規模と信用を有する独立した第三者決済機関が、各銀行と業務提携をすることにより、銀行の支払決済システムと接続した決済プラットフォームを提供するネット決済モデルをいいます。

この第三者決済モデルは、事業者がインターネットにおける商品・サービスの買い手と売り手の双方に取引の信用を担保し決済を行うことから、オンライン取引の買い手は商品代金の決済完了前に商品を受け取ることができ、売り手は代金未回収リスクを回避することができます。

代表的な第三者決済サービスとしては、e コマース最大手の「アリババ」社が 2003 年に 10 月にサービスを開始した「支付宝（アリペイ）」や、大手インターネットサービス企業「テンセント」社が 2013 年 8 月にサービスを開始した「微信支付（ウィーチャットペイ）」が挙げられます。

リサーチ会社である「BigData-Research」社によると、2016 年の第三者決済におけるシェア割合は、「支付宝（アリペイ）」が 52.3%、「微信支付（ウィーチャットペイ）」が 33.7%となっており、この 2 社が決済分野における圧倒的な地位を築いています。

【2016 年第三者決済におけるシェア割合】



(出所：BigData-Research 社)

このほか、「支付宝（アリペイ）」などの第三者決済サービスにおいては、自分の銀行口座からのチャージや銀行口座への振替、他人の銀行口座への振込なども自由自在に行うことができ、生活インフラになくはならないものとなっています。

4. おわりに

「支付宝（アリペイ）」や「微信支付（ウィーチャットペイ）」などの第三者決済サービスは、使い勝手が良い反面、個人情報取り扱いなどセキュリティーの確保がどのように行われているのか不透明な部分があり、この部分を明確にしていくことが今後の課題となりそうです。

このような課題はあるものの、中国では、店員が誰もいない「無人スーパー（※）」と呼ばれる店舗が登場するなど、モバイル決済の普及により新しい業態が生まれています。

（※）消費者は商品に貼られている QR コードをスマートフォンで読み込み支払いを行うことで、商品を購入することができる。

モバイル決済の動向については、ライフスタイルや企業運営などに与える影響も大きいことから今後も注目が集まるでしょう。

千葉銀行 上海駐在員事務所では、最新トピックスや投資環境など、中国に関する情報をタイムリーに提供する体制を整えております。中国に拠点をお持ちのお客様や、中国への進出を検討されているお客様は、最寄りの取引店を通じ、お気軽にご相談下さい。

以 上

※ ここに掲載されているデータや資料は、投資等の判断となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資等の最終決定は、ご自身のご判断でなされるようお願いいたします。また、弊行はかかる情報の正確性や妥当性については責任を負いません。

※ 本レポートに関するお問合わせは、千葉銀行 市場営業部 海外支店統括グループ
(Tel:03-3270-8526、Email:kaigai_tokatsu@chibabank.co.jp) までご連絡下さい。